

青少年の意識・ニーズに関する調査報告書

概 要 版

令和6（2024）年3月
福岡県

目次

1 概要	1
(1) 目的	1
(2) 調査方法	1
(3) 調査期間	1
(4) 対象者属性	1
(5) 今回の調査項目の作成方針	1
(6) 調査主体と実施機関	1
(7) 調査結果の分析者	1
2 調査結果	2
(1) ふだんの生活について	2
① 学校が休みの日にすること	2
(2) 日ごろ考えていることについて	3
(3) 学校生活について	4
(4) 生成A Iについて	5
(5) 将来の職業生活について	6
(6) 多様な性について	6
(7) 地域社会とのかかわりについて	7
① 近所の人とのあいさつ	7
② 地元のお祭りやスポーツ・レクリエーションへの参加	7
(8) メディア・コミュニケーションについて	8
① インターネットにつながる自分専用の機器の所有状況	8
② 平日の学校以外でのインターネット利用時間	8
③ インターネットを利用するようになってから変化したこと	9
④ フィルタリングの使用状況	9
(9) 国際化について	10
(10) 規範意識について	11
(11) 子どもと話す頻度と他項目との関係（保護者調査限定）	12
(12) 青少年の健全育成のために必要なこと（保護者調査限定）	12

(1) 目的

令和5年4月に施行されたこども基本法を踏まえ、青少年や保護者の意識と行動等の傾向や県の施策に対するニーズを把握し、青少年施策の企画・立案の基礎資料とすることを目的として実施した。

(2) 調査方法

調査の種類	方法
A. 小・中・高校生調査	学校を介して調査票及びWEB 回答画面にアクセスするQRコードを記載した調査依頼状を配布。
B. 小・中・高校生保護者調査	小学6年生は WEB、調査票のいずれかで回答、 中学2年生、高校2年生、保護者は WEB で回答

(3) 調査期間

令和5（2023）年11月下旬～令和6（2024）年1月中旬

(4) 対象者属性

調査の種類	対象	有効回収数（有効回収率）
A. 小・中・高校生調査	県内小学校（6年生）、中学校（2年生）、高等学校（2年生）に在籍する児童・生徒、各4,800名	小学校：2,261 サンプル（47.1%） 中学校：2,604 サンプル（54.3%） 高 校：1,964 サンプル（40.9%）
B. 小・中・高校生保護者調査	県内に在住する小学校（6年生）、中学校（2年生）、高等学校（2年生）の保護者、各4,800名	小学校：1,541 サンプル（32.1%） 中学校：792 サンプル（16.5%） 高 校：956 サンプル（19.9%）

(5) 今回の調査項目の作成方針

- 調査結果の経年変化を把握する必要がある設問は、原則として前回調査の設問を活かした。
- 設問の表現は、わかりやすく、より実態に合う用語に変更した。
- 保護者以外の児童、生徒にヤングケアラーに関する設問などを追加した。

(6) 調査主体と実施機関

調査主体：福岡県人づくり・県民生活部 私学振興・青少年育成局 政策課

福岡県福祉労働部 こども未来課

調査実施機関：株式会社日本統計センター

(7) 調査結果の分析者

株式会社日本統計センター

2

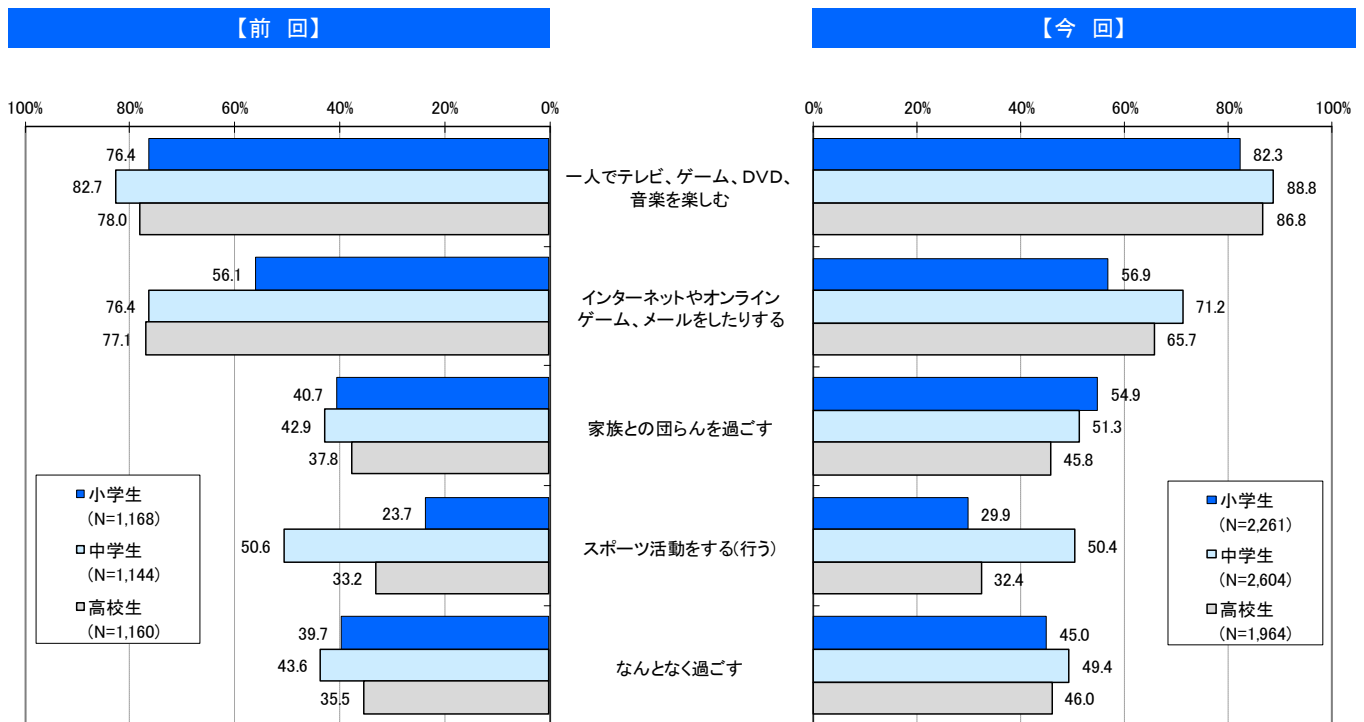
調査結果

(1) ふだんの生活について

① 学校が休みの日にすること

- 小・中・高校生いずれも「一人でテレビ、ゲーム、音楽を楽しむ」が8割を超えている。
- 次に多いのは「インターネットやオンラインゲームをしたり、メールのやりとりをしたりする」、「家族との団らんを過ごす」で、年齢が上がるにつれて「家族との団らんを過ごす」は少なくなる傾向がみられる。
- 「一人でテレビ、ゲーム、音楽を楽しむ」、「家族との団らんを過ごす」は前回調査と比べて小・中・高校生すべてで増加しており、「家族との団らんを過ごす」は前回調査に比べて、小学生で14.2ポイント、中学生で8.4ポイント、高校生で8.0ポイント増加している。
- 「何となく過ごす」も小・中・高校生ともに増加しており、前回調査に比べて高校生で10.5%増加している。

【学校が休みの日にすること】



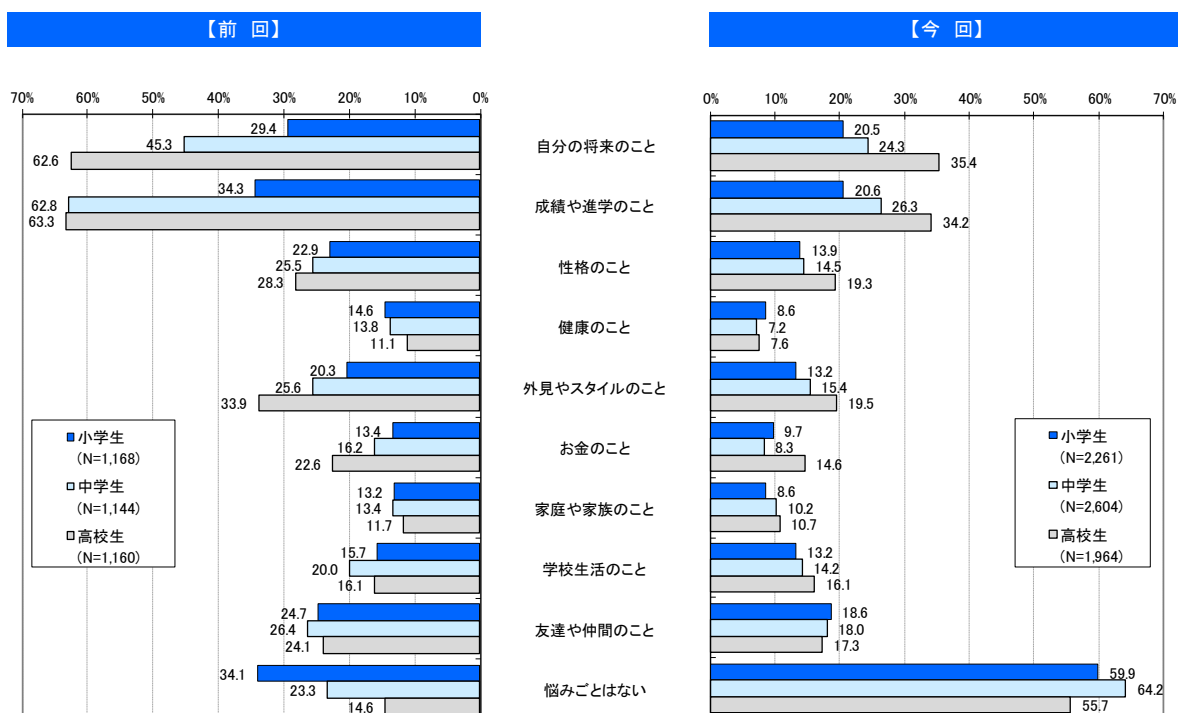
※以下の選択肢は前回と若干表現を変更しているが、前回比較において、同義で扱っている

「インターネットやオンラインゲーム、メールをしたりする」(前回「パソコン、スマートフォン(携帯電話)、タブレットなどでインターネットを利用したり、メールのやりとりをしたりする」)

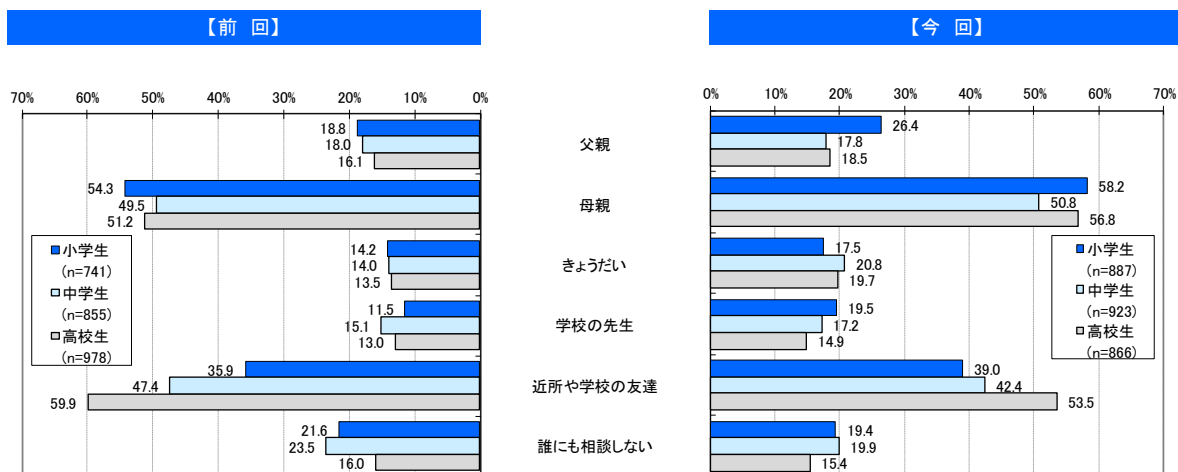
(2) 日ごろ考えていることについて

- 小・中・高校生すべてで「日ごろの悩みごとはない」が最も多い。
- 小・中・高校生ともに「自分の将来のこと」、「成績や進学のこと」、「外見やスタイルのこと」は前回調査に比べて大幅に減少し、「悩みごとはない」が大幅に増加している。
- 悩みごとの相談相手は、小・中・高校生ともに「母親」が最も多く、年齢が上がるにつれて「近所や学校の友達」が多くなる傾向がみられる。前回調査と比べて、小学生で「父親」が7.6ポイント増加、「近所や学校の友達」は中学生で5.0ポイント減少、高校生で6.4ポイント減少している。

【日ごろの悩みごと】



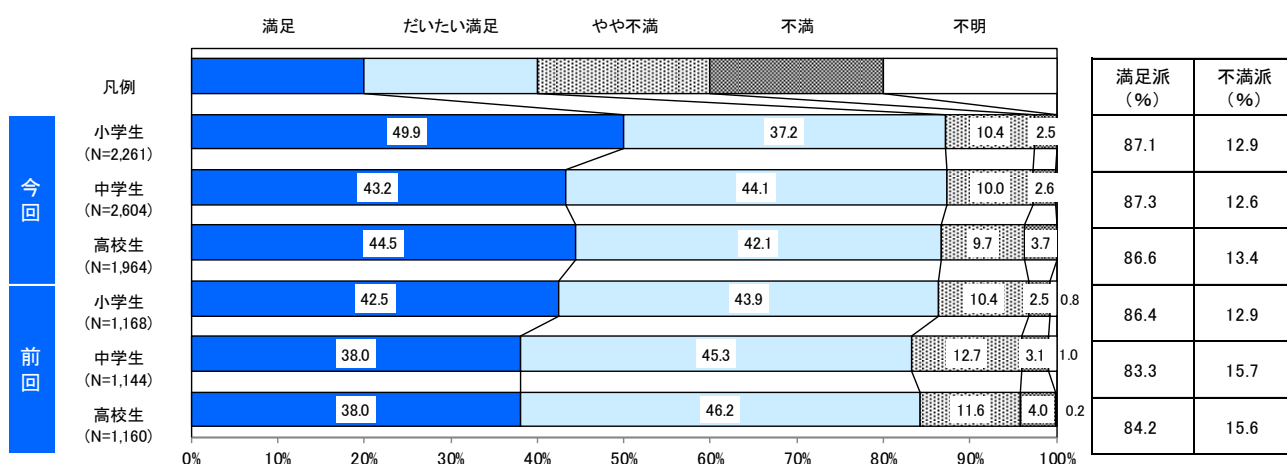
【悩みごとの相談相手】



(3) 学校生活について

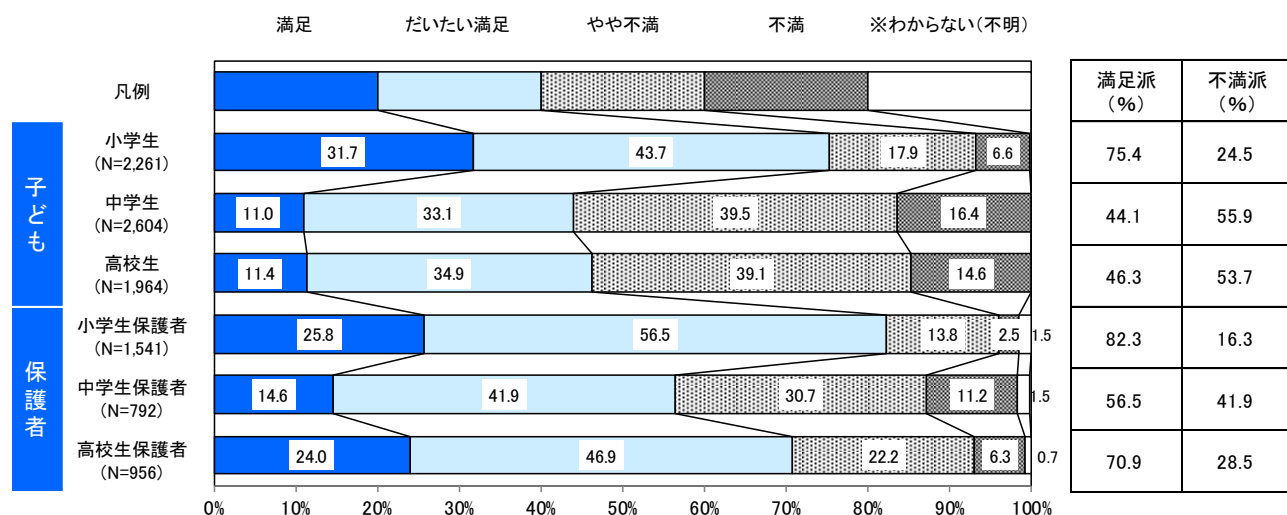
- クラスの雰囲気については、小・中・高校生すべての、8割以上が満足している。
- 自分の成績は、小学生で満足しているが7割台半ばを占めているが、中・高校生では5割以上が満足していない。
- 子どもの成績については、小学生保護者、高校生保護者は7割以上が満足しているが、中学生保護者の満足度は5割台後半と低くなっている。
- 子どもと保護者を比べると、高校生で生徒と保護者に大きな差がみられる。

【クラスの雰囲気についての満足度】



※『満足派』は「満足」「だいたい満足」を合わせたもの。
『不満派』は「不満」「やや不満」を合わせたもの。

【成績についての満足度】

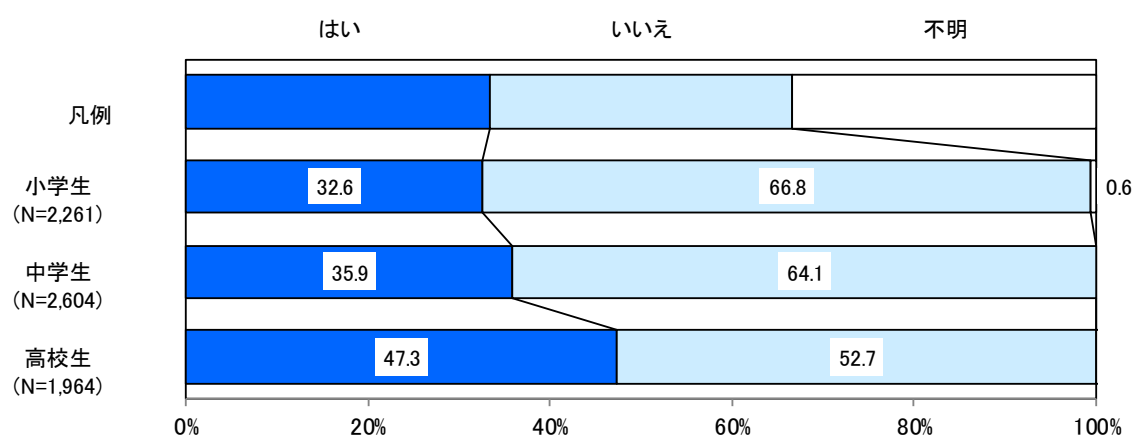


※「わからない」は保護者のみの選択肢、「不明」は子どもの割合。
※『満足派』は「満足」「だいたい満足」を合わせたもの。
『不満派』は「不満」「やや不満」を合わせたもの。

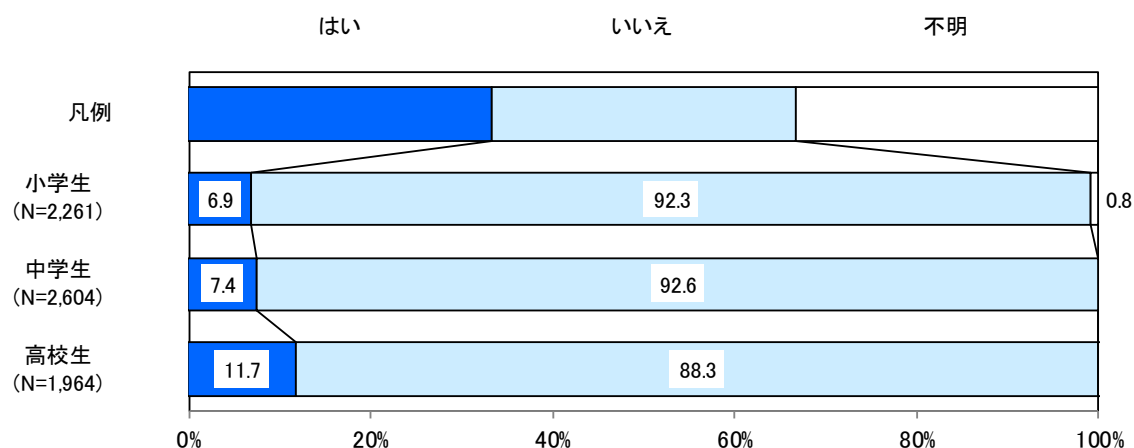
(4) 生成A Iについて

- 生成A Iという言葉の認知度は、小・中学生で「はい」(知っている)が3割台前半～3割台半ば、高校生で「はい」(知っている)が4割台後半で、年齢が上がるとともに認知度も高くなる傾向がある。
- 生成A Iの使用経験は、小学生で「はい」(使用経験あり)が6.9%、中学生で「はい」(使用経験あり)が7.4%、高校生で「はい」(使用経験あり)が11.7%である。
- 生成A Iを使用した内容は、小学生は「調べもの、勉強」が多く、中学生、高校生は「イラストを描く、画像生成」が多い。高校生は小学生、中学生に比べて「Chat GPT」、「文章作成」、「語学関係(英文作成、翻訳など)」に多く利用している傾向がみられる。

【生成A Iという言葉を知っている】



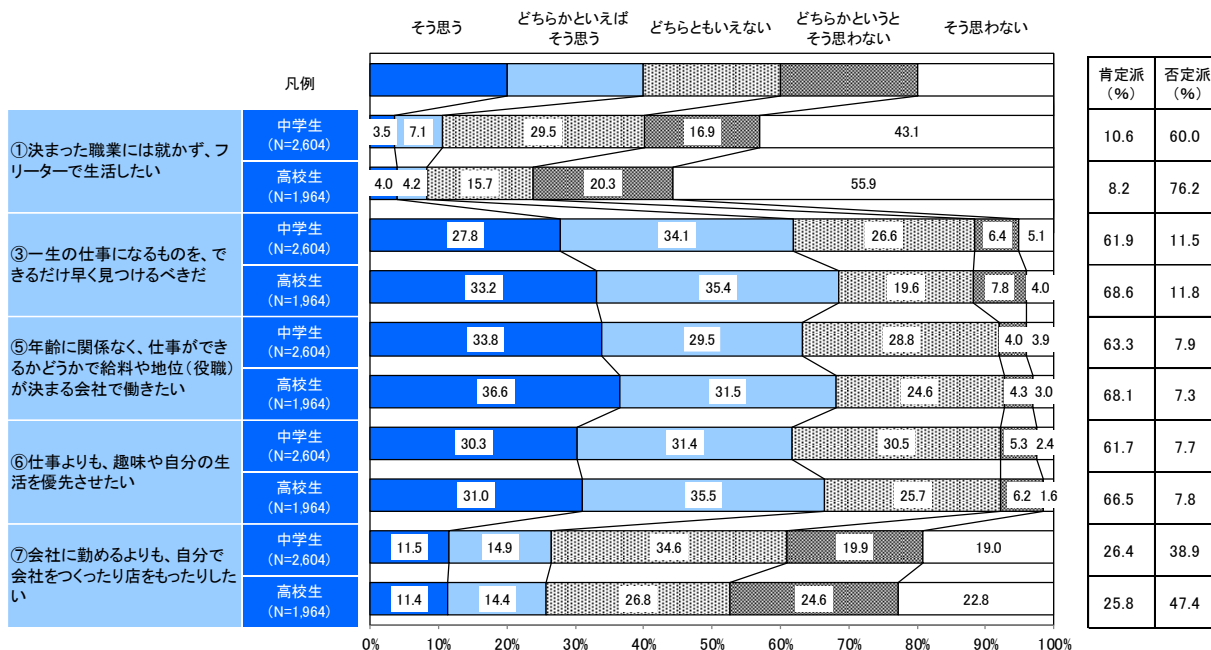
【生成A Iを使ったことがある】



(5) 将来の職業生活について

- 将来の職業生活では、年齢ではなく仕事ができるかどうかで評価される会社で働きたい、一生の仕事を早く見つけたい、仕事より自分の生活を優先させたいという考えが多い。
- フリーターで生活したい、起業したいといった考えには否定的な意見が多い。

【将来の職業生活について】

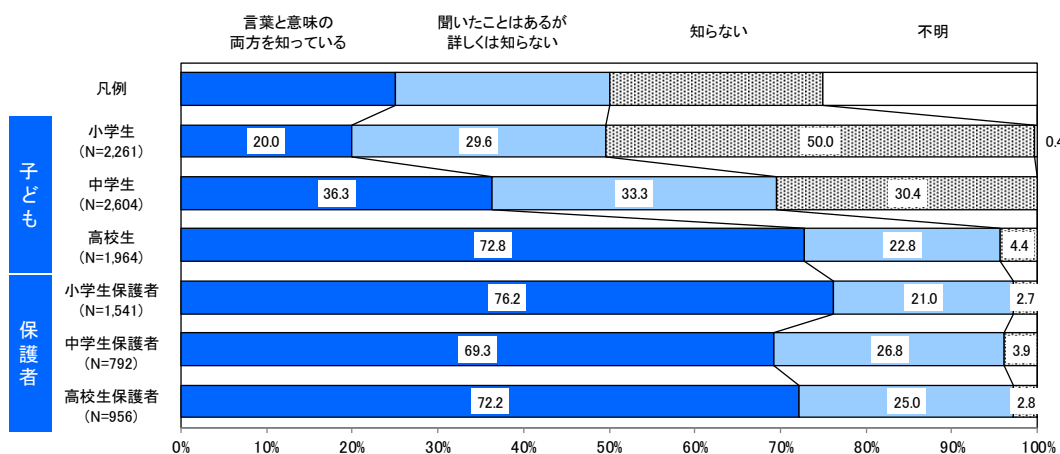


※『肯定派』は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせたもの。
『否定派』は「どちらかというと思わない」「そう思わない」を合わせたもの。

(6) 多様な性について

- L G B T（性的少数者を表す総称の一つ）の言葉と意味の両方を知っている割合は、小学生で2割で、年齢が上がるにつれて多くなり、高校生では7割を超えている。
- 保護者の認知度は高校生とほぼ同水準である。

【LGBT（性的少数者を表す総称の一つ）の認知状況】

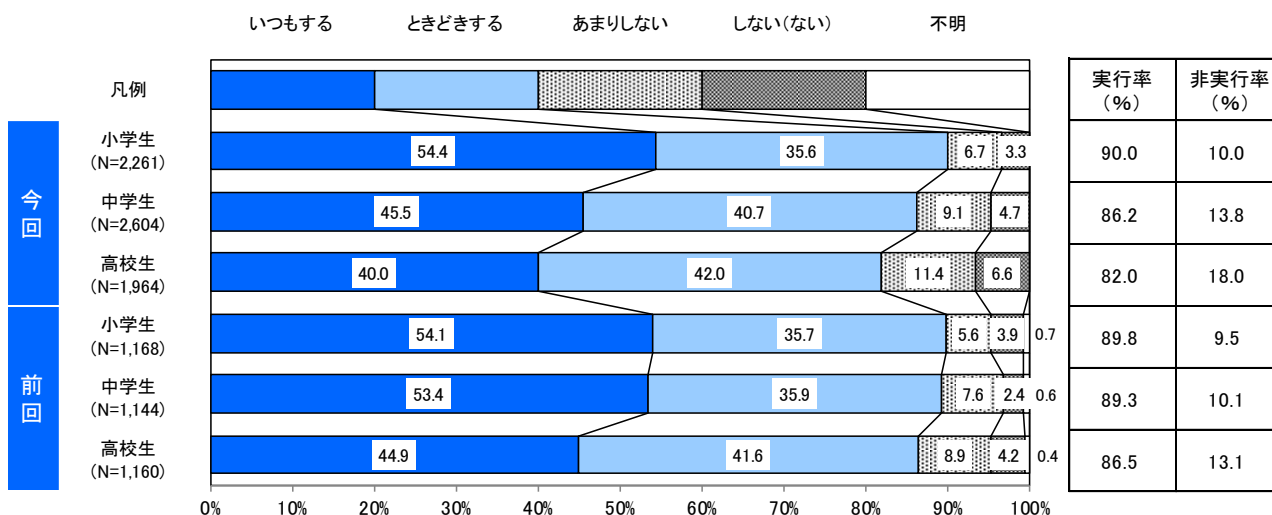


(7) 地域社会とのかかわりについて

① 近所の人とのあいさつ

- 小・中・高校生では、8割以上が挨拶をしている。
- 年齢が上がるにつれ、あいさつをする割合が減少している。

【近所の人にあいさつをするか】

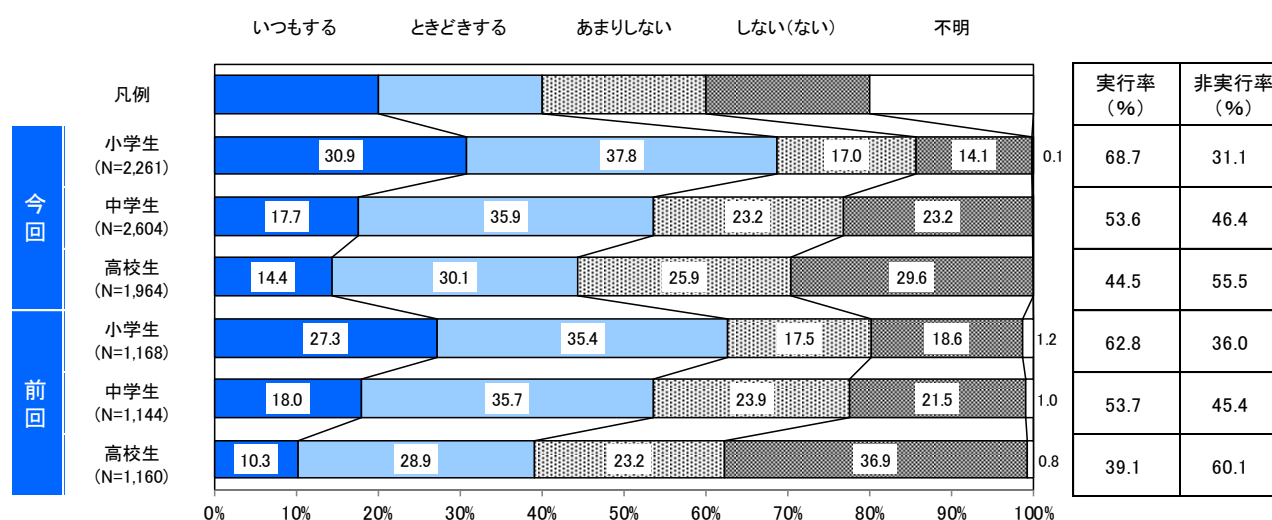


※『実行率』は「いつもする」「ときどきする」を合わせたもの。
『非実行率』は「あまりしない」「しない(ない)」を合わせたもの。

② 地元のお祭りやスポーツ・レクリエーションへの参加

- 『実行率』は、年齢が上がるほど低くなる傾向にある。
- 小学生、高校生では、前回調査と比べて『実行率』が上昇している。

【地元のお祭りやスポーツ・レクリエーションに参加するか】



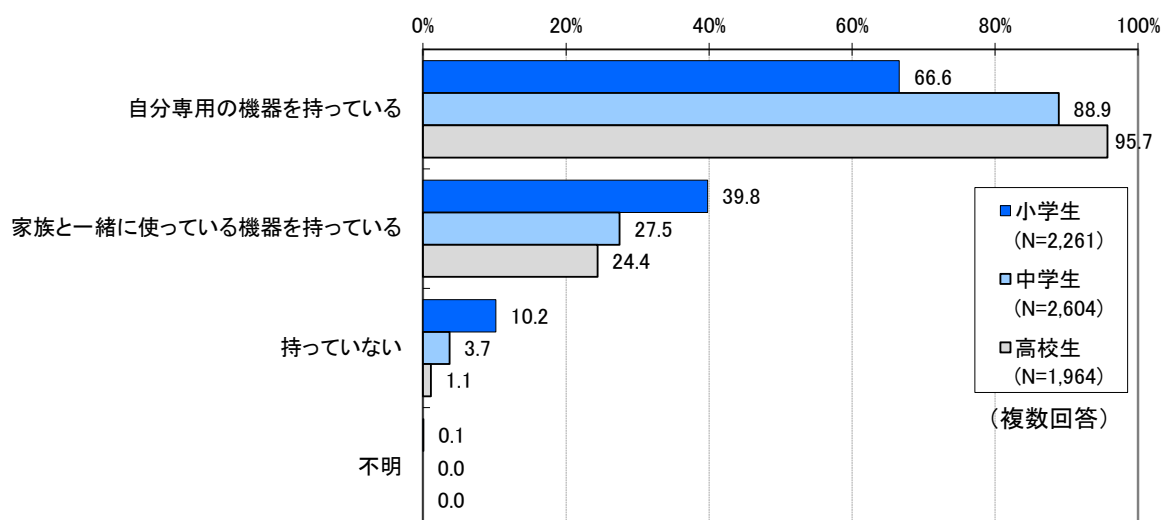
※『実行率』は「いつもする」「ときどきする」を合わせたもの。
『非実行率』は「あまりしない」「しない(ない)」を合わせたもの。

(8) メディア・コミュニケーションについて

① インターネットにつながる自分専用の機器の所有状況

- インターネットにつながる自分専用の機器の所有率は、小学生で6割台後半、中学生で8割台後半、高校生で9割台後半である。

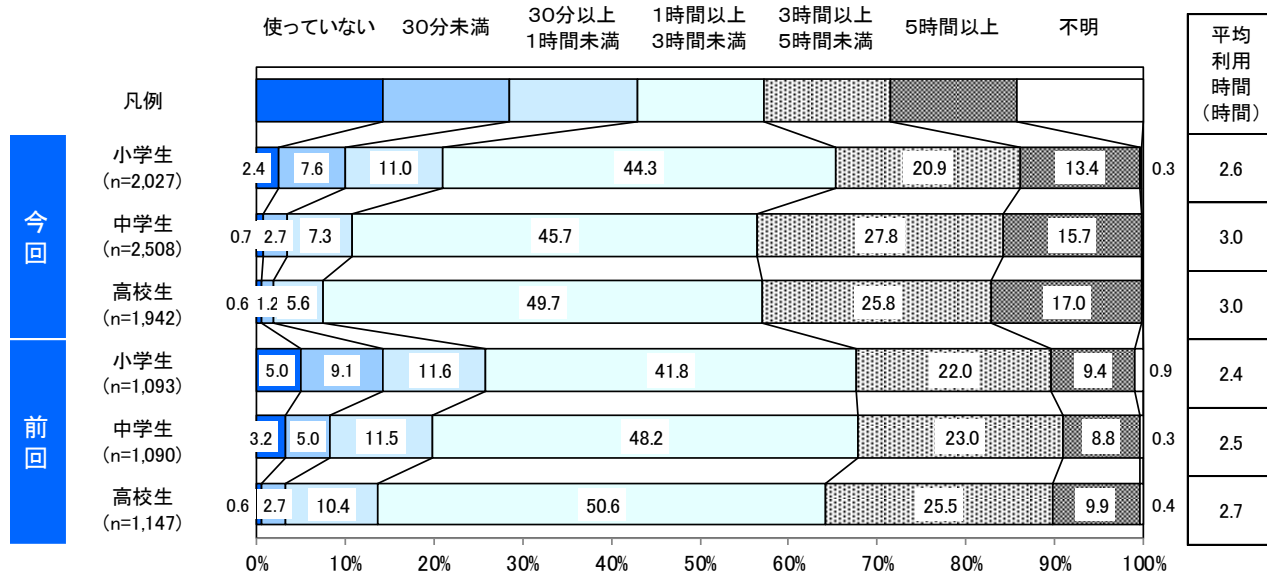
【インターネット利用可能機器の所有状況】



② 平日の学校以外でのインターネット利用時間

- 平日に3時間以上利用している割合は中・高校生で4割を超えている。
- 小・中・高校生ともに前回調査と比べて利用時間が増加しており、1時間未満という短時間利用者の割合が大幅に減少している。

【平日の学校以外でのインターネット利用時間】

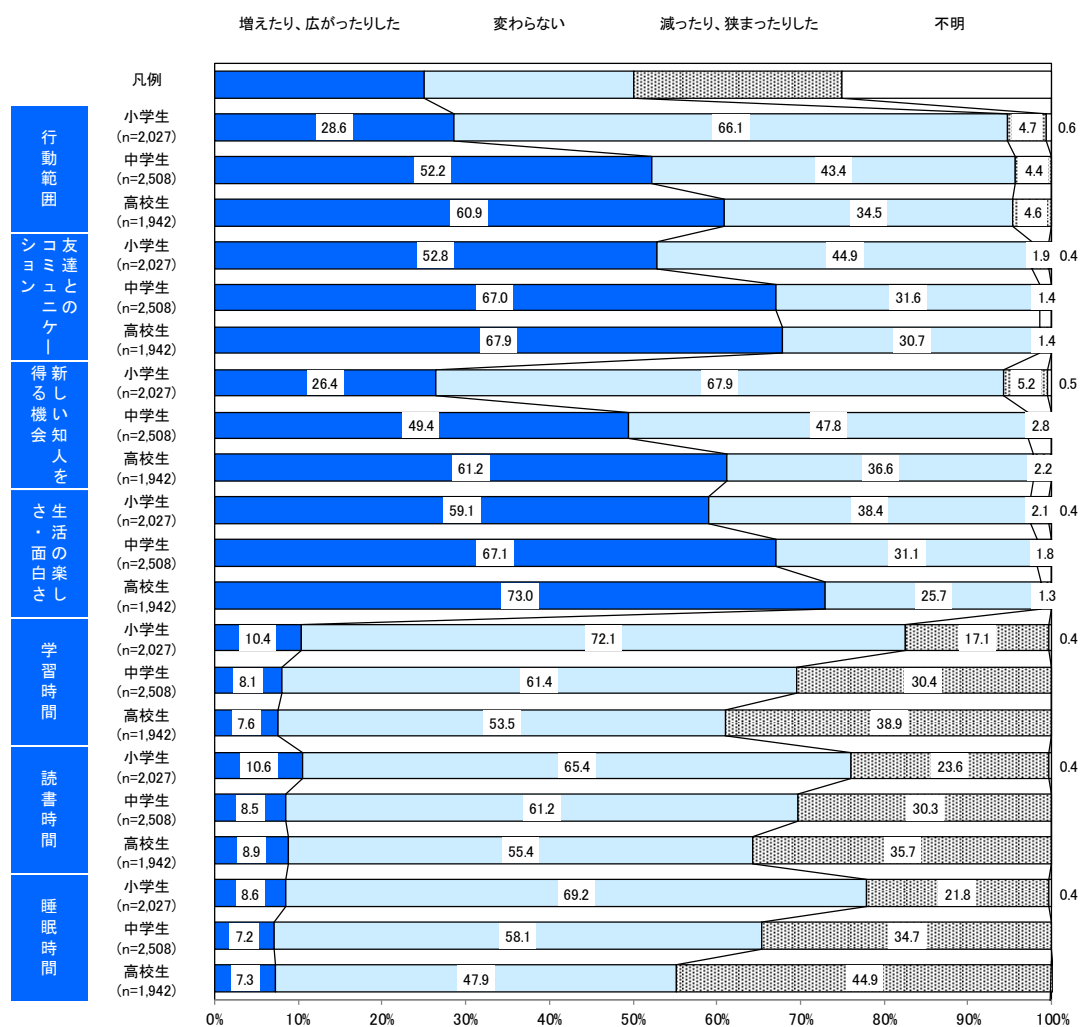


※『平均利用時間』は「使っていない」が0時間、「30分未満」が0.5時間、「30分以上1時間未満」が0.75時間、「1時間以上3時間未満」が2時間、「3時間以上5時間未満」が4時間、「5時間以上」は5.5時間で設定。

③ インターネットを利用するようになってから変化したこと

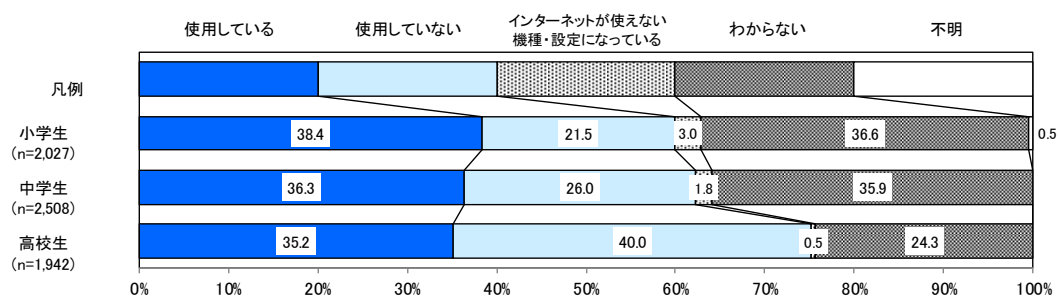
- 「増えたり、広がったりした」は、小・中・高校生すべてで「生活の楽しさ・面白さ」、中学生、高校生で「友達とのコミュニケーション」、「新しい知人を得る機会」で多い。
- 「減ったり、狭まったりした」は、「睡眠時間」、「読書時間」、「学習時間」で、年齢が上がるほどその傾向が強くなっている。

【インターネットを利用するようになってから変化したこと】



④ フィルタリングの使用状況

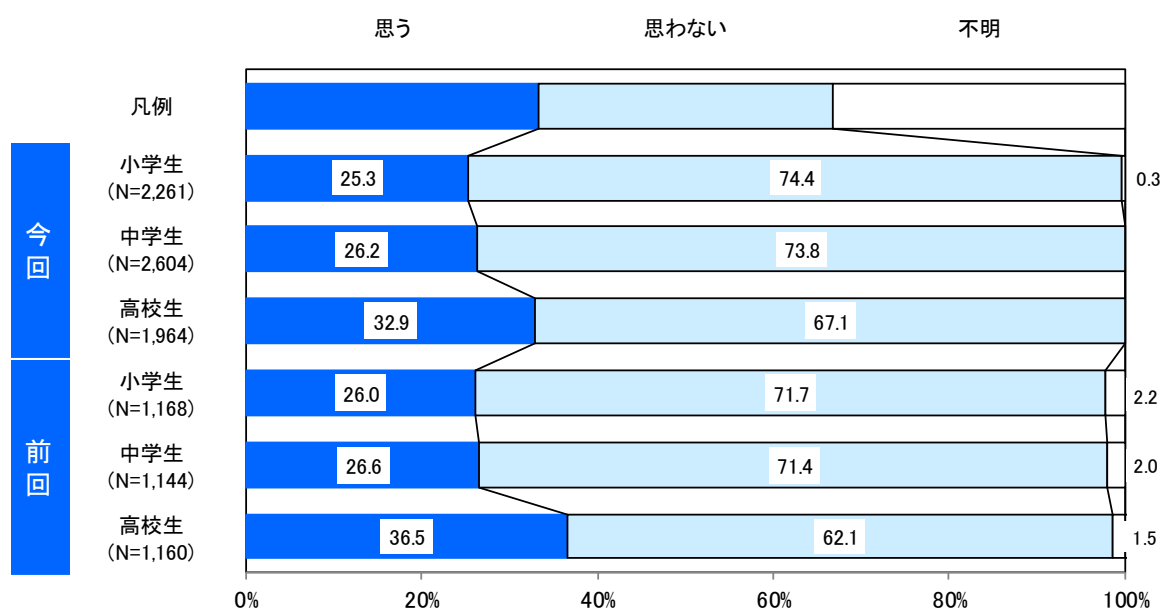
- 小学生、中学生では「使用している」が最も多く、高校生は「使用していない」が最も多い。



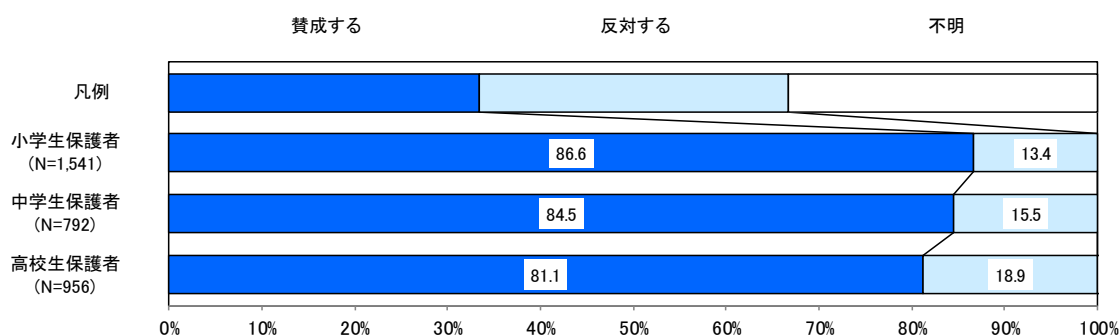
(9) 国際化について

- 海外留学や海外で仕事をする意向があるのは、小・中学生で2割台半ば、高校生で3割台である。保護者は8割以上が、子どもが海外に出ることに賛成しており、子どもとの考え方にギャップがみられる。
- 海外留学や海外で仕事をしたいと思わない理由は、語学の自信のなさが最も多い。

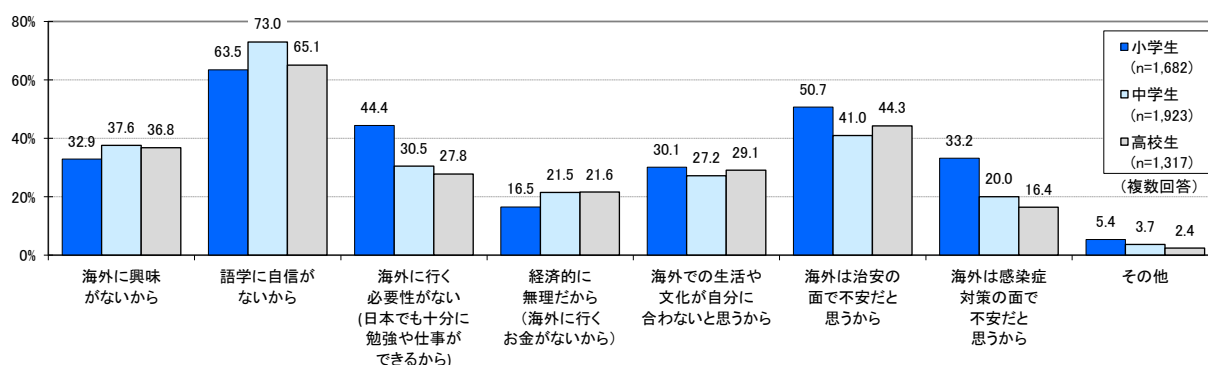
【海外留学や海外で仕事をしたいと思うか】



【子どもが海外留学や海外で仕事をするについての意識】



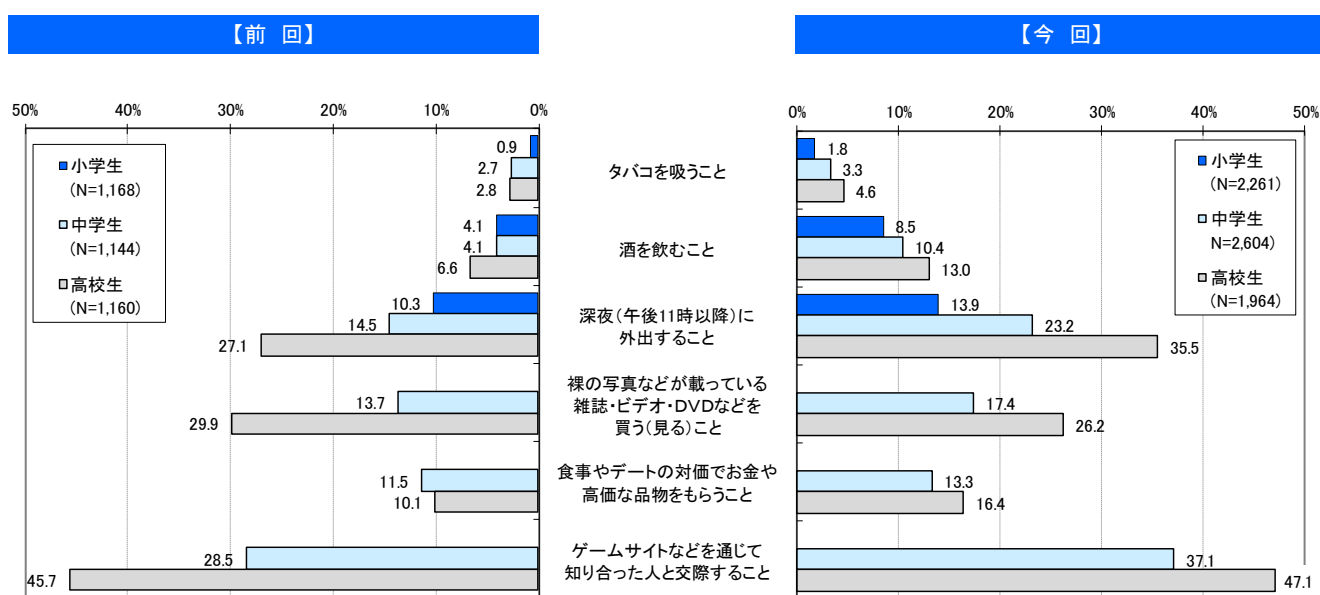
【海外留学や海外で仕事をしたいと思わない理由】



(10) 規範意識について

- いずれの行為も『悪い』が6割を超えているが、喫煙、飲酒、深夜（午後11時以降）の外出は年齢が上がるにつれて『悪くない』の割合が高くなる傾向がみられ、深夜（午後11時以降）の外出を『悪くない』と思う割合は、高校生で小学生を21.6ポイント、中学生を12.3ポイント上回っている。
- 前回調査と比較すると、中学生でゲームサイトなどで知り合った人との交際について、『悪くない』の割合が増加している。
- 保護者は飲酒を除く全ての行為で『悪い』が9割を超えている。深夜（午後11時以降）の外出は、保護者より子どもの方が『悪くない』という回答が多い傾向にある。

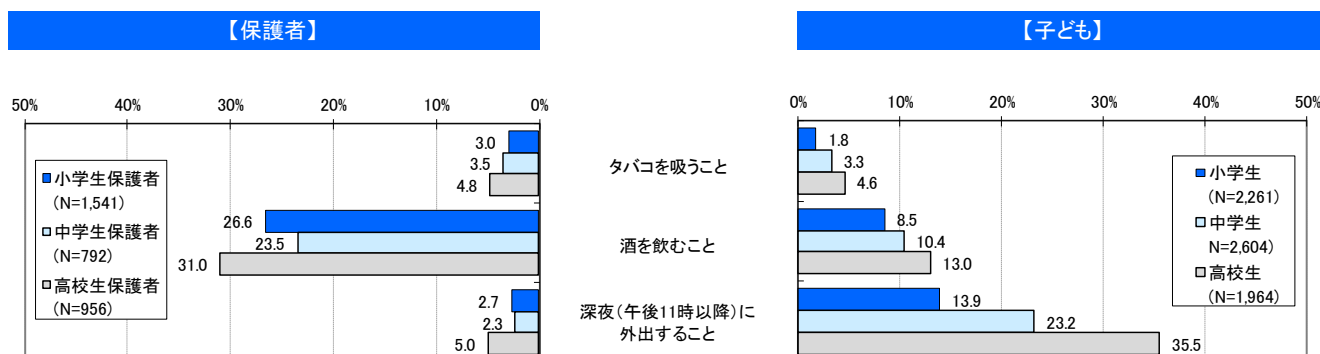
【小・中・高校生が『悪くない』と思う行為】



※『悪くない』は「あまり悪くない」「まったく悪くない」を合わせたもの。

※「裸の写真などが載っている雑誌・ビデオ・DVDなどを買う(見る)こと」「食事やデートをし、その対価としてお金や高価な品物をもらうこと」「ゲームサイトなどを通じて知り合った人と交際すること」は中・高校生調査のみの項目。

【子どもと保護者間の『悪くない』と思う行為の比較】

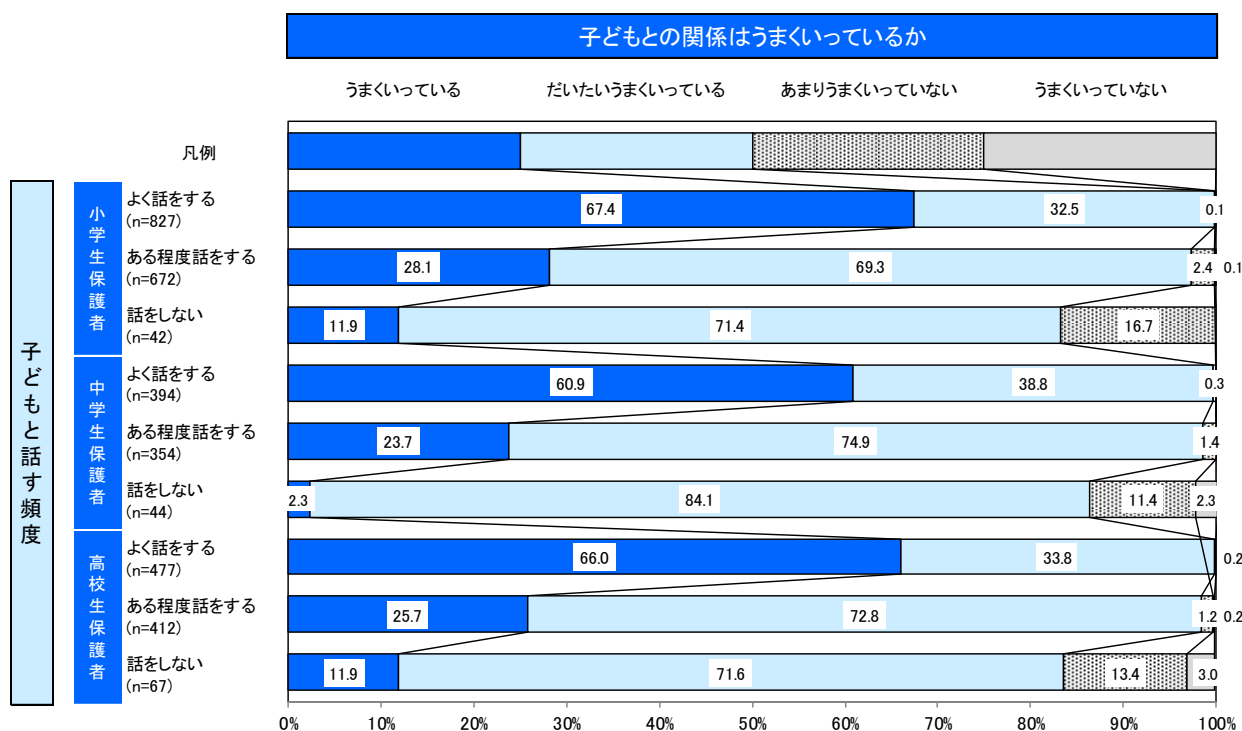


※『悪くない』は「あまり悪くない」「まったく悪くない」を合わせたもの。

(11) 子どもと話す頻度と他項目との関係（保護者調査限定）

- 小・中・高校生いずれの保護者でも、子どもとよく話をする保護者ほど、子どもとの関係がうまくいっているという傾向がみられ、強い相関関係がみられる。

【子どもと話す頻度と子どもとの関係】

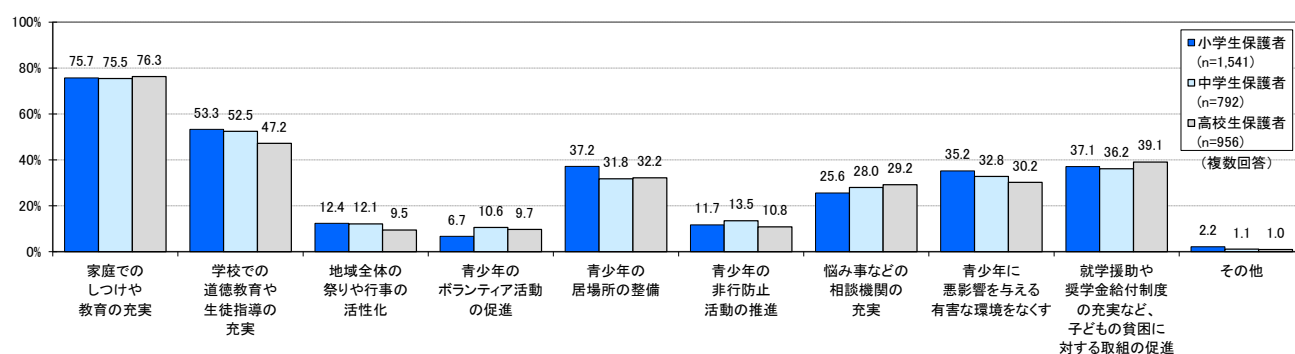


※『話をしない』は「あまり話をしない」「まったく話をしない」を合わせたもの。

(12) 青少年の健全育成のために必要なこと（保護者調査限定）

- いずれの保護者も、「家庭でのしつけや教育の充実」が最も多い。
- 次いで「学校での道徳教育や生徒指導の充実」、「就学援助や奨学金給付制度の充実など、子どもの貧困に対する取組の促進」となっている。

【青少年の健全育成のために必要なこと】



青少年の意識・ニーズに関する調査報告書

【概要版】

発行 福岡県人づくり・県民生活部 私学振興・青少年育成局 政策課
福岡県福祉労働部 こども未来課

〒812-8577
福岡市博多区東公園 7 番 7 号
TEL 092-651-1111 (代表)

福岡県行政資料	
分類記号 JE	所属コード 4600119
登録年度 05	登録番号 0003